			学校運営計画				
教育目標		自他を尊重し自主的・自律的に考え判断し行動する人に育てる					
めざす姿	(1) 生徒像: 「人・物・事を大切にできる心豊かな生徒」「好奇心を持ち、ひたむきに学ぶ生徒」「目標に向かってたくましく取り組む生徒」 (2) 学校像: 「秩序ある雰囲気の中で、安全で安心して生活できる学校」「目標に向かって生徒と教職員が共に活動し実践する学校」「笑顔があふれ、生徒の成長を通して保護者や地域から信頼される学校」 (3) 教師像: 「自他を尊重し、気持ちをくみ取り、人と人のつながりを大事にする先生」「生徒の可能性(やる気)を伸ばし、生徒の笑顔を引き出す先生」「教育専門職(プロ)として、真摯にかつ謙虚に学び、模範(学ばれる)となる先生) (4) 授業像: 「学習の目標と方法が明確で、生徒の主体的な学びがある授業」「思考力、判断力、表現力を育てる授業(問いを立て、最適な解を探す)」「学びあえる学習集団を形成し、達成感が実感できる授業」						
昨年度の成果と課題 本年度の重点目標 重点目標の具体的な内容							総合
【成果】 ・オンライン配信を様々な場面に活用し、自宅にいる生徒への学習支援、学校行事の実施など、コロナ禍での教育活動の工夫をすることで、本校の新教育様式とでも言うべき教育活動が生まれてきた。		1. 主体的・対話的で深い学 びの実現に向けた授業改 善					
・新教育課程が完成させることができた。 【課題】 ・オンライン配信のための支援の強化、教育設備の充実 ・新教育課程にふさわしい教育 ICT の活用や実践の研究と確立 ・観点別評価の実戦とさらなる充実と工夫		<ol> <li>知・徳・体を一体で育む 教育実践</li> <li>持続的で魅力ある商業教育の構築</li> </ol>	イ 言語環境の整備を取り組みの端緒として、多様性と包摂性を高めた学校文化を醸成する ウ 人権・同和教育実践指定校としての取り組みを通して、人権感覚の高揚に努める  業教 ア 高等教育機関と連携した専門人材の育成 イ 地域産業界と連携した教育課程の開発と実践				
		13.511376	ウ 検定・コンテストを活用した自己実現	中間	年度	VL / T.	-
評価項目	具体的目標		具体的 方策	評価	末	次年度への課題	
つなぐ力 (他尊・自尊)	人権感覚の高揚 (安心できる学校づくり)	り組み、生徒支援体制の充実を図 (2)生徒の豊かな情操と道徳心を培い	生活アンケートを年6回、生徒のおかれている状況を迅速に把握することで、課題を持つ生徒への組織的な対応に取 4、生徒支援体制の充実を図る。 の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流能力を養うため、全ての学校行事において道徳教育、特別支援教育 体験活動等の充実を図り、他者の個性や価値観を共有できる人権感覚と多様性への理解を持たせる。		A	・生徒支援に関しては学校だけでは対 応できないケースが増えている。SC、 SSW、病院との更なる連携・協力体	
		(3) 人権・同和教育実践指定校として、12月の発表に向けて人権・部落問題学習や教科・科目において人権教育に取り組むとともに、発表後もこれらの取り組みが継続できるよう、人権感覚と多様性への理解を持たせる		A		制の構築 ・対人交流の機会が戻りつつある中 で、道徳心や人権感覚の更なる育成	
つくる力 (学力の定着)	主体的学びがある 授業の実践 (キャリア教育の実践)	(1) 新学習指導要領に対応した教育課程や観点別評価の検証および課題等の改善を行い、生徒の個々の活動等を適切に評価できる評価方法を構築する。		Α	Δ	・令和5年度より1人1台端末に向けた ICT の更なる活用法の構築、デジ	١.
		(2) 授業研修会を開催し、思考力・判断力・表現力を育てる授業(問いを立て、最適な答えを探す)を実践するために教師自らが学びあうことで、指導力向上を図る。		Α	A	タル環境の整備。	
		(3) ICT 教育を授業のツールとしての利用に留まらず、地域や他校・大学と連携をするツールとして幅広い活用を実践し、課題解決型学習の開発を行う。		В			
協働する学校・ 家庭・地域 (信頼される学校)	地域から信頼され 応援してもらえる 学校の構築 (地域貢献できる有為な 人材の育成)	<ul><li>(1)「ふるさと久留米」を愛する地域創生の担い手を育成するために、PTA、民間企業や行政、地域の教育力と連携した教育 実践を行い、地域と学校との絆を深める。(PTA面接練習会、商業科課題研究 等)</li><li>(2) 多くの方々に久商祭や体験入学等に足を運んでもらい、生徒が活躍する場面を見ていただき本校教育活動に対する理解を 深めてもらう。</li></ul>		В	A	・コロナ禍前の活動に戻りつつある中 での身近な周辺地域との共同的な活動の企画	i
		(3) 教育内容や実績、特別活動等を中	学生や保護者、地域にPRするため、より関心が沸くような学校ペンフレットを作成すを年2回、保護者向け説明会を年2回、地域別説明会を5地区で企画・実施する。	A		・生徒自ら学校の魅力をPRできるプレゼン能力、企画力、創造力の育成	